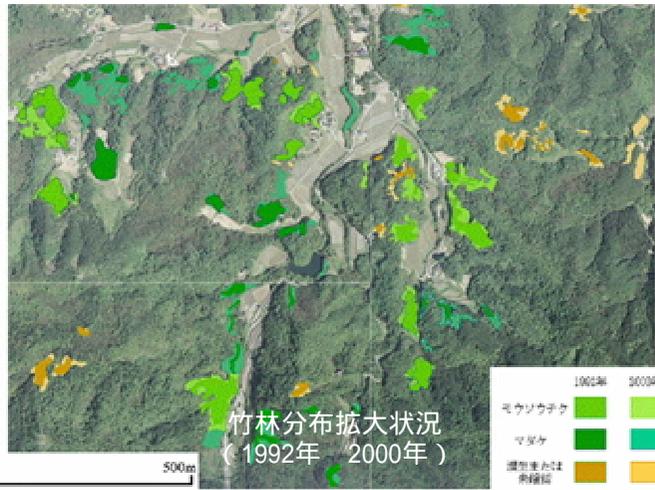


拡大する竹林

竹は、毎年、タケノコを出し、3ヶ月ほどで10~20mもの竹に成長します。手入れがされず放置されると藪状になり、毎年1.5mほど、外に向かって地下茎を伸ばして広がります。竹に覆われた樹木は日光があたり、徐々に弱り枯れてしまいます。香川県が、人工衛星データ(ランドサット)や空中写真データを使って竹林拡大状況を調べたところ、県全体では、15年間で竹林の面積は、約1.8倍に、また、地域によっては、27年間で2.4倍に広がっています。

竹林拡大面積と拡大率

	1986年	2000年	拡大率	備考
香川県全体	2,173ha	3,978ha	約1.8倍	人工衛星データ
	1974年	2000年	拡大率	備考
3調査区 (13,475ha)	725ha	1,728ha	約2.4倍	空中写真データ



里山をおおう竹林

~ 竹林の整備と利用のために ~



竹林は今

かつては、竹林から生産された竹材やタケノコなどは、人々の暮らしに欠かせない存在でした。しかし、代替品の普及や安価な輸入品が増えた結果、竹林は手入れせず放置されるようになり、急速に竹林が周囲の森林や農地に侵入・拡大して、枯れた竹が倒伏し、藪状の竹林になり、人が中に入ることができないほど荒廃しています。



畑や民家に迫る竹林



道路や民家に迫る竹林

なぜ竹林の整備が必要か

私たちの生活を脅かす(水源かん養・県土保全機能の低下)

手入れされず放置された竹林では、林内に下草が生えず、また地下茎が枯れたり、地表30cm程度の浅い所に地下茎が集中して、保水力の低下、土壌浸食や土砂崩壊が危惧されます。



竹林での土砂崩壊



竹林での土壌浸食

動植物が減ってしまう(生物多様性の低下)

手入れされず放置された竹林では、光や空間が不足して他の植物が生育できなくなり、竹のみの単一な植生になります。他の植物が生育できないと、そこに生息する動物の数も減ってしまいます。

二酸化炭素の吸収・貯留が減ってしまう(地球温暖化防止吸収源としての機能低下)

手入れされず放置された竹林では、地上部の量は、他の成熟した広葉樹や針葉樹に比べて低い値を示し、二酸化炭素貯留量が頭打ちとなります。



人を拒む荒れ果てた竹林



竹のみの単一な竹林

里山が竹林に変わる

3ヶ月で高さ10～20mに達する竹が里山に侵入すると、日光があたりなくなるため、樹木は弱り、ついには枯れてしまい、竹林に変わってしまいます。

里山の景観が変わる

竹林は雑木林や田畑とともに美しい農山村の風景をつくってきましたが、竹林の拡大により、農山村の風景が変化しています。



人工林に侵入した竹林



里山が竹やぶの風景に

みんなで参加しよう！里山づくり

身近なみどりである里山は、香川らしい風景を守り、多様な動植物を保つ場として、また、水源のかん養や県土保全などの機能を発揮しています。里山を守るためには、手入れされず放置された竹林を整備し、その拡大を防ぐことが大切です。

そのためには、里山の所有者が自ら手入れするのはもちろんのこと、県民みんなの参加や協力が必要です。香川県内では、タケノコ採りや竹炭焼き、竹を使った遊びなどをとりいれ、楽しみながら里山づくりに取り組む森林ボランティアグループの活動が増えています。県では、県民の参加による竹林の整備や利用を通して、里山づくりを推進するため、県民の参加による里山づくり活動の場と機会を提供しています。里山づくりや体験活動に関心のある方は、下記までお問い合わせください。

香川県環境森林部みどり整備課

TEL:087-832-3465 FAX:087-861-5302
メール:midoriseibi@pref.kagawa.lg.jp
HP:http://www.pref.kagawa.jp/pubsys/cgi/contents_view.cgi?cd=55



里山づくり活動状況



タケノコ採りが楽しめる里山づくり